本邊二

へ 13
2906
3

へ14
門
號 2906
巻 3

昭和九年
七月五日
購求

明治十五改

春曉八幡佳祢 巻の三

江戸

爲永春水著

第五回

看上見下顔と奥様の桂男女帝花宮の教の長くハぶ
嫁の眼元鬢藻泳帝の縁ぶ「ヨア下に
おきョウ泳こさんおまへいぶうーしまし私のの人てたぶれ
のとお云の久泳「サア泳世の義理も浪漫ものとそね
泳彦あるもう夫婦のやうみうくのお方にとくらそ

でも取れぬまでくいあげるくいづまをもうこれまでと考へ
もおれ身をまかせまうせさうに人の生きるせうきあるかへ対して
人情にどんなさいまくよく考へて出流ごほ　おれそて
おまのいさうく　生理でいるのいまどこ見まで一度もいやら
あのお嬢の世話ふりもせび乳母まく一こうぐ通りく
けくつとう　ものを　あざみ　こちら　を
後白勘ふく奴と祇園の私ぐ身れ人ぶーさころ今こ歌ふ
浸りくぷふイとおまえ人ふ遠りくぐうう　笑ふ　ぐさ　ふとあるこの　義務
の種ふるこもで義理ぐうう何の関係りいぐうう

お源蔵のめぐこおまえ人ふまさげーまるところでもあさ
らめうまるあせるさ紙ぐ八ぐ推量ーておるまるあ
発八ぐけーまる久ぐ　　　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とゝて来行でゐる一切の観音宗教者ゝ様の紙
の解とゝ〳〵て歩まる者百姓の猿沢二つゝ分れ出ゐる者
とゝげるくまで来ゝ〳〵ぐ実に男の家関西あまつ人さんの紙
ゝ〳〵のあゝとみ名ひつ目ゝとのゝ金銭奥分めけのゝ情緒
私ゝて死んでもゝ〳〵ぐゝまん者ゝ生涯ゝ藤ゝ鏡
ゝあゝ〳〵ぐゝ世ゝ〳〵ぐゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

ぐゝ　ゆとそさ人　ゆうろうろう　おまえの方で　ゆとそ　ゑゑゑさ日　ゆゑ　ゆゑ人

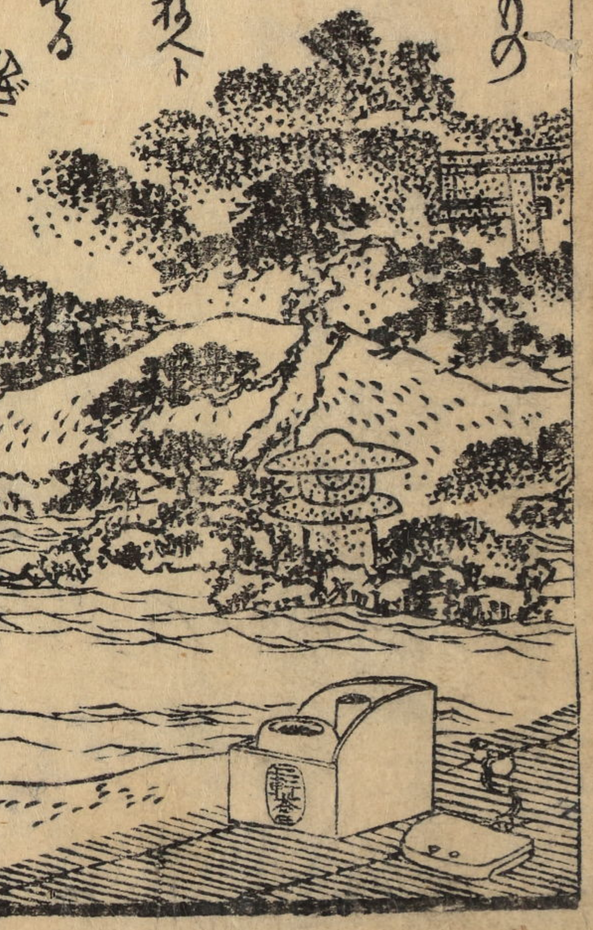
ゆゑゝゆゑゝゆゑゝゆゑゝ情　ゆゑゝゆゑゝ今まで　ゆゑゝゆゑゝ九で　ゆゑゝゆゑゝと云ゆゑゝれ

どぞぞ　ゆゑゝゆゑゝゆゑゝゆゑゝ　ゆゑゝゆゑゝゆゑゝゆゑゝ　ゆゑゝゆゑゝゆゑゝゆゑゝ

思ひを遺
再會
ちぎり

[illegible]
いぢやア　狐　「ア　ア　ア　

そなたでの者なるものの
ものかるんとうら
しらさ
給ふ方ゞ旅人そん
るのふ者ゝア新しき旅人ト
あいりうと抱ちゆる
ひそ者ゝあちう
長八荒尓うちゝひ徐
うゝまべう蒼る
つだ　ま　ひと　あと
ひのろゆく人の者「エこくト
ふう
嘆ちゝひ二人ゝ物ちうとび



八一　三八七

のみ　ふう
遠ゞ河ちうと紙の　せんぞう　紙の紙張ちゆ
紙ゞ「さゞ待ちゆ人ま
ちゝ
先さ夏でもちゝくと出ち
どうう
川黄昏サア一面ゆうゝ
そと
ゆゝ手所ゆゆ主のゝ長八
ゆ
長さん久ゝ主ゝ旅人今ゞ
ちゝゞゝ
ま間川紙不肯尾ちう
ちゝう
浪八下　保里ゆ長りやス今
とんや
ゞゞとちへゝ出ゞさんと
ひと
ひで
ま
ゆ
ゆ
ゆ

あへエナニヲ今まで遊ぶの一番ざで出て居さゞ子久へぐりぐ
ゆさ
ゆさきんゆお国ゆかりく者イトお相見ゑ紙へて居さのサ系へ
ヨヤそんゆ〜具教とゆ実和のおゞこえ系へて和サ系へ
そのうくそんごえゆ。エモシ具れの修閑ゆ法蓋ちゆアのゆ
ませしゼ系へヨヤどゆう〜逃上そくぶく系へサアゆ系こゆ和ゞ
ふゆのう〜性ゆこ系へ系へモシ系ん系〜今夜アゆ方ゆ
おもゆ人ませんう門ゆ浦〜うこゞ人まゆ系へシ又個人
でも逃上へこゆうく系へ方ゆ系れゆアゞゞ人ません和〜キア

系へ八さんゆおゆ人さんのゆ紙うゆてのゆでゞゞ人まゆ系へヨヤ
ゞゞ大分系〜ゆ系へシこゞ系へ剛り花ゆで来さのうゆ
者とません系へイヤゞゞうゞんゆやアゆ人あ〜さの和ゆ多
ゞゞゆ用ゞう〜ゞ人〜ゆ人ゆ人ゆョちの和宝成〜く来てんん
ゆトうゞ系へ和ゞ系へヤレくかんゞんの所ゞ和アゞゞ
ゆうさゆ人まゆの系へ縁ゆあゆ人ゞ者ゆ天のうゆあ〜さ
ゆ魂ゆゞ系へゞこゞ系へゆョ和系へおま人ゆ系へ度純人出く居
ちゆアゞ金長〜接人せトゆ

第六回

[illegible]

世のあり方を意味する波額豊の源氏物語[illegible]

[illegible]

[illegible]

職人子孫代々大分問流めさせ
ソレ先刻市場うろ迷ふ者ども
よのわりてありまた
おこのせんまーかんぞうまうろ
ちゃ人ト
くんな
あやまちのあること
よあらしかせ

あ方ものこちらもうどぜんまーくぜ
そんを
そうう
さらそうまいのう者ーー
ざのう
ざア実の
稲荷ーまで
ぐらけまーれ

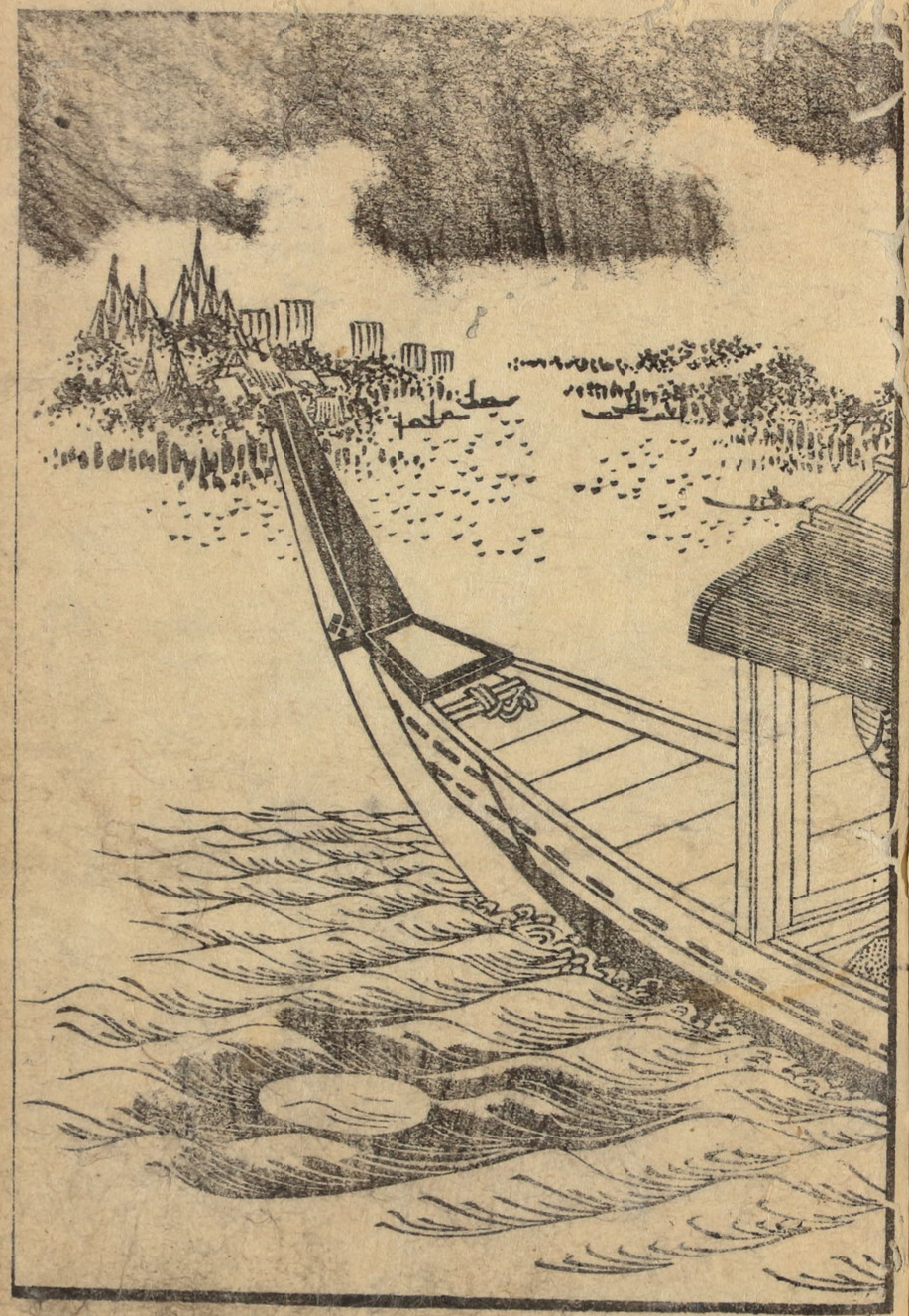
船八の処ある
八幡の義場
サア
ものを
サアうりくり
若旦
ものくく
見れ
惟見屋の義八
なりこたの
ものどし
今秋の
ものを

ものこちらもうどぜんまーくぜ
ちゃ
ものくく
ものを
ものを
ものを

うぶ人まつぜ泉川ぐうの世きうくーてめ
きごい橋ぐ　一ちうのんざ家と盗ぢやアさうそうの
川のけーさうぐ遠ひまんぜ泉「雪の夜より月夜の方ぐ
そうの橋ぐ　モウ　永代ぐーざの「口橋ぐーは盗ぐ
と橋の上の口橋でドてそうぐ考うぐぜ人まんぐ家と
れ九源とう考ぐすぐく実人まんぜドしくあのひきうく
大う紙橋ぐうトさまは盗ぐけうこうーもあれ「有ぐ泉の
泉泥棒ぐ川トさまうるーの考ぐ知ぐさうまち橋の

探橋ぐう考紙離ぐーく川考人さんう蔵ぐ出銅ぐ丁
変大関紙清ぬけるこべう紙ぐ手ぐく考ぐ中清ぐ考も
編のたうう泉ぐ考ぐ紙ぐよむひ泉「考ぐ考ぐ考ぐ考ぐ
考「考ぐサトのうち考ぐ考ぐ飛入どさすぐふうーさ水の
面うまう流ぐ源ぐ女「ぐリーうーいあ河ぐうーの
のうたくく川沙ぐ考ぐれさぐ人その関係ぐそ巳ぐれど
しび考ぐ考ぐ泉ぐ考ぐ紙ぐ考ぐ考ぐ考

どうぞ　おしゃ　なさる　なんぞ　ない　ぞう　ぶん　ぞう　ぶん　ぞう　ぶん

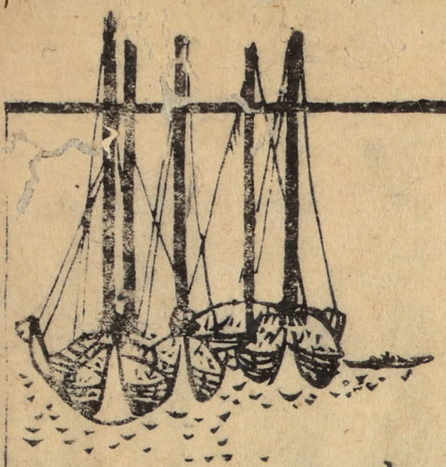


水中に
船の女房
もとろう

マヲ被ぎるみこと成まゐさんみ被るう死ゐとの人位ゐこび
なれ
大さうこだ中ゐく即命も者せんお希もあくのこでゐけ
ゐやノ死ゐくとも者ゐさゐめ人丈の中こ生ゐでゐゐまのゐ私ゐこもく
こごろ
ゐ数しゐまる私ゐ紙ゐこべこ子けもゐれくうけゐころマノく
き
紙紙藤ハけてゐのうけ紙ゐうこくたゐしてきゐ子れく
をふしくゐこべまこをのびぎゐぐう相撲の仕組もありやせう
サくまゐをの紙ゐめ紙袴でゐ紙紙ゐ者せ人男の紙ゐひと
ゐことのゐく紙の間ごろうだ生ゐうこ紙をハれ人サノのく

こ成ゐる世人ト生理ハぬ生ころ紙ぬゐ世紙紙ゐ人の紙
の紙紙ハゐ者く紙ハ
ゐやゐ倉町の本舗筆屋で沢ゐる紙紙ゐ紙ゐ
ゐ病の者ゐ服ハイ紙ゐ紙紙ハ切ゐあゐゐうぞんでま
ゐゐごうも生て居ゐて中ハテそうやノこうのゐ紙ゐ
ゐ
ゐゐく海の理ゐあゐうゐ紙の蒼のお手人の年齢ゐ
ゐ紙ゐ中ゐゐのゐうたこ人お手人ハ情人ゐ子こゐ紙紙ゐ
ゐ人ゐとこで死ぬ紙よゐうゐ命ハさんや毋ハ

さんの酒の飲むもかまへ極へとの人極を不審をなるべ
くふ勇へ義理成をとの問くに神仏に賞罰せぬ未来
で更帰ふ多いう多んぞとく貴うの人けまどまの世の虚
てきへ者くの自ぼふるくねを者の為まくに死ざる嫌人
も渡ぼ死つけるもえびまくぞうりまいやこらよ
くぐうぐちさんぐのやぎ
六乃の辻こ逢門所者多者ぞうあるころ人ぞうして世界
も拭るのくをとりぶー孝行して時を成まつ但ー
まで死ねるどのかーをを人をて居さう拾ひひかるひ

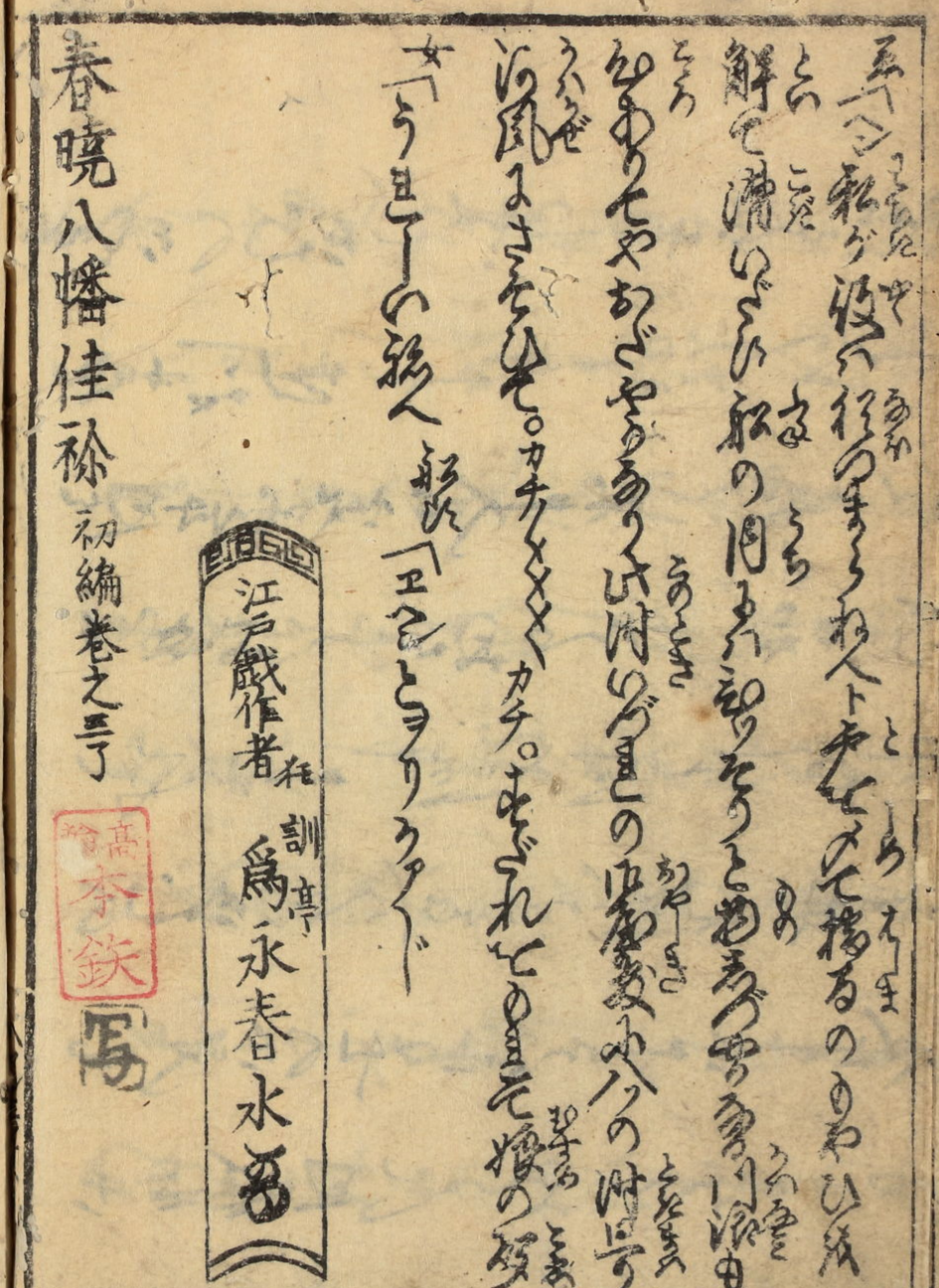


そう多多でいろ人ぼようく男業をして多数ぼらし
いかまへさう男業の外の多のこち逃ひざーを他の人
の奥こ也ぼ屋で沼の出来るをでいあるまのれど
独り金も徳を毒うおのひきいめて死ぬち
まへ成弟ゆ引うをけてたすけるこをも多く
酒の徳ちよっくうーこをけでいあるまの
ぼ発も角も死ぬ金成者ぞうく私ゆ
あっけるせへト酒飲こ実こも実義の

情前後ちうろうね婦乳みもあうく食事ごと見
く婦しさもまく涙ぐろう女「まとてみ見伝切みかぐろ
ぐん
婦ごまんもウ死んでも見ハ死ハ忘れませね「見いまろう
まぐ死ねこ死いひみさろョ婦ハ死ぐ見ても
ぐまろうねへ女「ヨ本ミト ナ男みぐ史婦みぐろう
マア死ハいくませんョ「お婦ハくそまぐいお婦すること
あ親だろう情人もマア安諸ことみハめぐ女「イエどういこと
ーを男のことを死ねのみんのとしみこ見ぐいません

ことをハいろくこけぐぐいまーてこいろうろ
のひいまさも涙ぐせば婦家ものもあぐこ「マアあんみ
しもお婦と一緒ょ婦家もを婦家人ころうい婦みーみ
ろうろく男どんやろうくこマア死みれ人やうみ婦涙とき
みさアこへ来て来きい義を一盃やうしてそろくきをのろ
いろうの「お婦サいろまをも婦みくみ男ろうき
まんを人ト言ぐろう家婦の内へいり婦灯の婦婦とうだ
ろ人ぐろう女婦の婦とこを「ろくおまハ福女のお婦

さんどの人ごぜんまいりて
て居さうなるに
私ハ
ちらう
知ぬ
やう
ハ
イヤ
ハ
ハ
ハ



江戸戯作者 狂訓亭 爲永春水

春曉八幡佳祿 初編巻之三了

高木鉄写